



CANNESS

バネガス彫刻展



ホセ・バネガス

□経歴

- 1954 コロンビア、ボゴタ市に生まれる
 1975 コロンビア国立大学美術学部入学
 1979 コロンビア国立大学建築学部ホールの彫刻モニュメント
 (ポリエステル樹脂およびグラスファイバー) 彫刻家A.ディアスとの合作
 1980 コロンビア国立大学美術学部彫刻教室講師
 1981 第1回個展開催
 1982 コロンビア国立大学より彫刻ならびに美術の修士号

□受賞歴

- 1982 アメリカ合衆国政府招へいにより同国各都市の美術館を歴訪
 1982 第2回ヒルベルト・アルサー・アベニョ展にて彫刻部門受賞
 1983 日本国政府招へいにより2年間の金沢美術工芸大学研究生となる

□合同展

- 1977 ルイス・アンヘル・アランゴ図書館(ボゴタ)「176新進名匠展」—素描
 1978 ルイス・アンヘル・アランゴ図書館(ボゴタ)「素描家と版画家展」
 1981 現代美術館(ボゴタ)「第2回国民造形美術展」
 1981 農業銀行文化サロン(ボゴタ)「第1回国民彫刻展」
 1982 G.A.A.現代美術館(ボゴタ)「第2回ヒルベルト・アルサー・アベニョ展」受賞
 1982 コロンビア・アメリカセンター(ボゴタ)「20世紀コロンビア美術1978-1982新たな貢献と傾向」
 1982 現代美術館(ボゴタ)「第3回国民造形美術展」
 1982 G.A.A.現代美術館(ボゴタ)「第14回8月展」
 1982 メデジン、フランシスコ・アントニオ・セア美術館(メデジン)「第12回若い芸術展」
 1983 G.A.A.現代美術館(ボゴタ)「第3回ヒルベルト・アルサー・アベニョ展」
 1983 ルイス・アンヘル・アランゴ図書館(ボゴタ)「二画家二彫刻家展」
 1983-86 金沢市(日本)「第3~6回金沢彫刻展」
 1984 ルイス・アンヘル・アランゴ図書館(イバグエ)「二画家二彫刻家展」
 1984-85 名古屋市博物館(日本)「第6、7回中日展」
 1985 東京都美術館(日本)「第49回新制作展」
 1986 東京都美術館(日本)「第22回国際公募亞細亞現代美術展」
 1986 東京都美術館(日本)「第11回国際親善美術展」
 1986 金沢市(日本)「第25回北陸中日美術展」七尾市長賞

□個展

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| 1981 ブッホルツギャラリー(ボゴタ) | セメント |
| 1981 アンドレス・ペーリョ文化協会サロン(ボゴタ) | セメント、コンクリート |
| 1981 コロンビア・アメリカセンター(ボゴタ) | セメント、ポリエステル |
| 1982 コロンビア国立大学美術館(ボゴタ) | セメント、大理石、木材 |
| 1985 西田画廊(奈良市—日本) | 木材、鉄材 |
| 1986 日辰画廊(東京都—日本) | 木材、鉄材、ガラス |
| 1987 那美画廊(金沢市—日本) | 木材、ブロンズ、ガラス |

私設ボスト番号:67579 Bogota, Colombia. South America

日本連絡先 奈良市大宮町1-7-12 西田考作方 TEL0742-35-2455

御守 1987 高×35×30 cm

ミラフ女 1986 高×32×32 cm

63 高×32×32 cm

風の墓 1986

35 高×36×25 cm

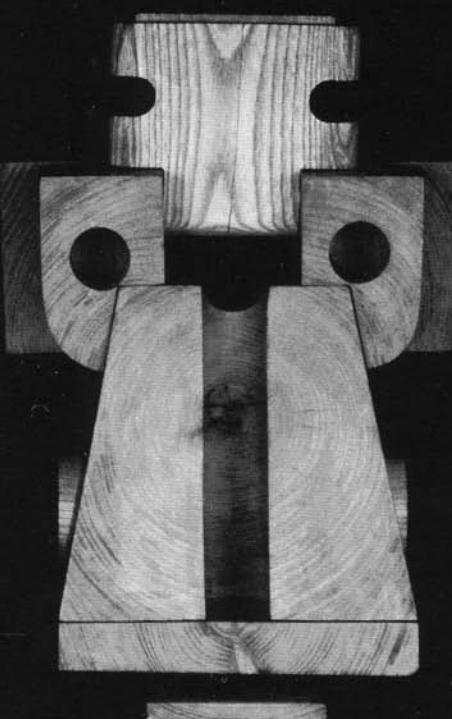
ホセ・バネガスさんの個展が開かれることを心からお喜び申し上げるものであります。

金沢美術工芸大学で二年間、研究生として学ばれたが終始強い意欲をもつて制作に励まれたことに対し今も敬服しております。インカ、マヤ、アステカ文明の遺産は彼の血脈の中に流れおりそれに加えて日本で吸収した神秘的、宗教的因素をも組みこんだ作品に接するとその表出する心象の深さと高さが大きな感動を誘うのであります。この個展に多くの市民が来場鑑賞されることを期待しております。

昭和六十二年四月

金沢美術工芸大学長

桑田 良夫



近年の氏の木を使った仕事は、直線と曲線の組み合せによる、変化に富んだ抽象作品からなっている。それは実に、潜在的な力強さと謎を秘めた一つの統和をなしている。

美術評論家(コロンビア) ヘルマン・ルピアノ・カバジェロ

バネガスの彫刻は完全な抽象形態である。平面および曲面からなる幾何学的な立方体をいくつか組みあわせて作品を構成する。しかし彼の作品には無機的なつめたさはない、きわめて有機的な生命があふれている。

美術評論家 木村 重信

あなたの作品は興味深く、印象的です。

国際彫刻センター館長(ワシントン) ファーチゴット・デビッド

いまのバネガスの作品を見ると、ひどく整理されて、きっちりしていると思われる反面、何か妙に引っかかるものがあって、完全に無機的な幾何学的抽象にはけっしてなっていないのである。明快に整理はされているが、たしかに有機的で生体的なフォルムがちゃんと残存して息づいているのである。

世田谷区立世田谷美術館館長 大島 清次

ホセ・バネガス君の彫刻は、立体空間に対し、観念的な種々の試行を冷やかに見つめながら、乾いた、するどい形の複合的な発見を素直でバイタルな集積群の中で、デリケートな素材処理の配慮と共に見せている。

彫刻家 高橋 清

非常に単純な構成要素からなっているにもかかわらず、作品全体として大変大きな存在感を与えていている。

彫刻家 山下 晴子

あなたの作品には、実に多くの角度からの美の追求がみられる。

心理学者(アメリカ) フォーレスト・ティラー

あなたの作品を見ると私は強烈な感動を覚えます。それはあなたの作品が芸術的に価値のあるものというだけでなく、ひとつの筋道の通った、深い意味をもった言語のように思われ、そしてみごとに精巧をきわめたものであるからです。

映画評論家(コロンビア) アルフォンソ・アルファロ

これらの作品は、骨らかで光沢のある木を組み合わせた造形物である。複雑で知的であると同時に、磨かれた木特有の自然の色調に、ある官能性さえ感じられる。

バーバラ・ソーレン ジャパン・タイムズより

彼は木を素材に、ブロックを積み重ねたようなトーテムを表わす。表面は堅く、肌理は細かく、切り口は尖鋭で、作品全体に視覚的量感が漂う。

ジャネット・コプロス 朝日イブニング・ニュースより

いしかわオピオナ

中米・コロンビア出身の彫刻家で金沢市長町三丁目に住むホセ・バネガスさん(三毛二)が、同市安江町の那美画廊で十二日まで個展を開いている。滞在三年半だが、五月に離日するのでこれが最初で最後になりそう。

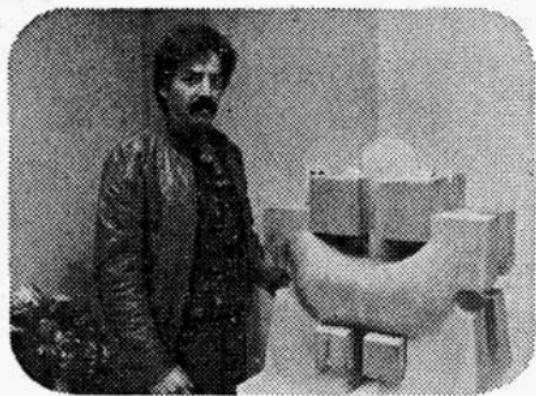
バネガスさんは文部省の招きで五十八年に来日。金沢美工大に一年半学んだあと、金沢で制作を続けていた。寺、墓、漢字など様々なもの

に刺激を受け、今回展示されているケヤキ材、ブロンズの幾何学的な作品制作のきっかけになっている。

コロンビアにいたころは現代的だった作品が、来日後はマヤ・アステカ文明を感じさせるものになつたそうだ。バネガスさんは新たな刺激を求めて、五月からイタリア、スペインを中心にヨーロッパを回る「どんな変化が作品に出るか自分でも楽しみ」と言う。

離日控えお別れ個展

コロンビアの彫刻家バネガスさん



Gente en el arte

Por MARÍA CRISTINA PIGNALOSA DE URDANETA

Hoy reaparece esta sección de las páginas culturales de **EL TIEMPO**, en la cual semanalmente destacamos a la gente del arte, tanto en Colombia como en el extranjero. Desde luego, el énfasis estará en lo que hacen nuestros artistas aquí y en otras parte del mundo.

Artistas colombianos en el exterior

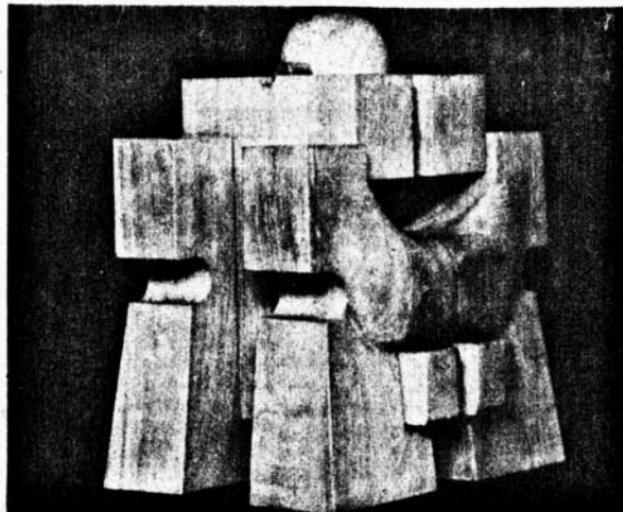
En Bogotá se inauguran diariamente un promedio de 10 a 15 exposiciones de pintura, en otras ciudades del país crece día a día la actividad plástica de tal manera que muchos jóvenes artistas se ven obligados a exhibir sus trabajos en espacios que no son aptos para ello. Restaurantes, cafés, bares, clubes sociales y marquerías exhiben exposiciones y muchas de éstas tienen copados sus espacios y paredes por mucho tiempo por anticipado.

Por esto numerosos artistas se ven obligados a desplazarse hacia otros países del mundo en busca de mejores oportunidades, de horizontes, donde puedan obtener la oportunidad de mostrar sus trabajos. Muchas veces sus intentos son frustrados pues deben competir con artistas de estos países y existen preferencias por ellos. Otras veces, regresan triunfantes del exterior. Pero aún así les cuesta trabajo conseguir espacios adecuados en Colombia, su país de origen para mostrar lo que exitosamente han mostrado en Europa o Estados Unidos.

Muchos de los jóvenes envían los catálogos y reseñas con el ánimo que en Colombia se pueda dar cuenta de sus actividades y lo logrado. Reseñamos algunos de ellos.

Yairo Mejía

Participó en la exitosa representación colombiana efectuada en el Grand Palais de París recientemente. Cuenta que sus futuros proyectos incluyen un



"Cathedral", escultura en madera de Vanegas.

próxima exposición en Medellín. Exhibe sus pinturas actualmente en una marquería de su propiedad, espacio que se encuentra completamente colmado por sus pinturas.

Sobre su trabajo nos dice que ahora tiene una mayor libertad y espontaneidad que es más acorde con su temperamento. Ahora la gama de colores utilizada por él, aún si denota una fuerte influencia del trópico, está neutralizada por la utilización del color negro. Utiliza el grafismo y plasma en sus trabajos lo que a diario vive, el paisaje urbano con una marcada influencia del caos ciudadano, el flujo de los automóviles y su invasión del espacio público. Afirma "El artista es el medio para demostrar lo alienante del ambiente. Ve lo que sucede a su alrededor y lo transmite en el lienzo".

Constanza Bonilla

En el Ateneo barcelonés exhibió Constanza Bonilla Monroy una serie de pinturas y monolíneas que tituló "La figura del grito". Anteriormente los expuso en París. Su sensibilidad plástica está demostrada en su trabajo, personajes salidos de su imaginación, o de la vida real que ella dibuja en atmósferas de un tiempo que solo ellas conoce.

Jaime Alberto Franco
Becado por el gobierno francés en la Escuela Superior de Bellas Artes de París debido a sus sobresalientes trabajos plásticos. Franco muestra sus dibujos y pinturas más recientes en la "Cité des arts" de la capital francesa.

José Vanegas

Vive en el Japón. Se trasladó allí después de completar sus estudios académicos en el Conservatorio Nacional de Bellas Artes de Bogotá. Vanegas por dos años seguidos ha exhibido en las galerías Nishida de Nara y en la Galería Nishishin de Tokio individualmente. Ha sido invitado a participar en el Museo Metropolitano de Tokio, en el Museo de arte moderno de Nagoya y en el de Kanazawa. Por su trabajo ha recibido varias becas para continuar estudios de postgrado. Sus trabajos son esculturas elaboradas en madera; totems, formados por segmentos que pueden ensamblarse y colocarse de diversas formas. Dice que sus trabajos son reminiscencias de la herencia Incaica, Maya y Azteca, adicionándoles nuevas imágenes que a diario percibe y lo motivan. Síntesis de formas trabajadas en madera que dice el artista "son hechas para tocar y acariciar".

ピア・ボゴタ市生まれ。コロンビア国立大学美術学部卒後、同大彫刻教室講師になる。個展が米国大使館の文化担当官の目に留まり、米国に招かれ、五十八年三月、日本政府の招きで、来日。大阪外語大で半年間、金沢での初めての個展を開く。

日本語を学んだあと、同年十月金沢美術工芸大研究生となり、二年前に修了した。ずっと金沢暮らしを続け、四月三日から十二月まで金沢市安江町一の武藏ヶ辻ビル二階、那美画廊で初めての個展を開く。

ホセ・バガス、コロンビア・ボゴタ市生まれ。コロンビア国立大学美術学部卒後、同大彫刻教室講師になる。個展が米国大使館の文化担当官の目に留まり、米国に招かれ、五十八年三月、日本政府の招きで、来日。大阪外語大で半年間、金沢での初めての個展を開く。

日本語を学んだあと、同年十月金沢美術工芸大研究生となり、二年前に修了した。ずっと金沢暮らしを続け、四月三日から十二月まで金沢市安江町一の武藏ヶ辻ビル二階、那美画廊で初めての個展を開く。

ホセ・バガス、コロンビア・ボゴタ市生まれ。コロンビア国立大学美術学部卒後、同大彫刻教室講師になる。個展が米国大使館の文化担当官の目に留まり、米国に招かれ、五十八年三月、日本政府の招きで、来日。大阪外語大で半年間、金沢での初めての個展を開く。

日本語を学んだあと、同年十月金沢美術工芸大研究生となり、二年前に修了した。ずっと金沢暮らしを続け、四月三日から十二月まで金沢市安江町一の武藏ヶ辻ビル二階、那美画廊で初めての個展を開く。

日本語を学んだあと、同年十月金沢美術工芸大研究生となり、二年前に修了した。ずっと金沢暮らしを続け、四月三日から十二月まで金沢市安江町一の武藏ヶ辻ビル二階、那美画廊で初めての個展を開く。

日本語を学んだあと、同年十月金沢美術工芸大研究生となり、二年前に修了した。ずっと金沢暮らしを続け、四月三日から十二月まで金沢市安江町一の武藏ヶ辻ビル二階、那美画廊で初めての個展を開く。

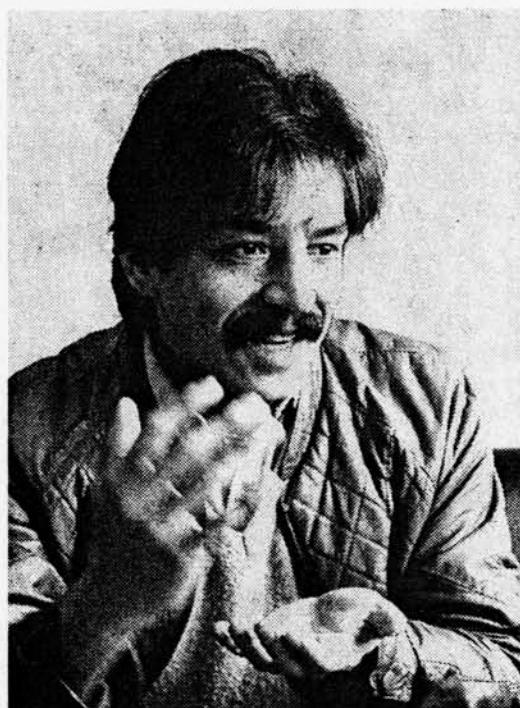
日本語を学んだあと、同年十月金沢美術工芸大研究生となり、二年前に修了した。ずっと金沢暮らしを続け、四月三日から十二月まで金沢市安江町一の武藏ヶ辻ビル二階、那美画廊で初めての個展を開く。

木の素材が好き

全部で十五点。木の作品が多いが、二点はブロンズ作品。木は明るく、あつたかく、軟らかい感じが出て好き。堅い木が好きで、ケヤキを使っていて、高くて木。へどんなどですか

抽象的な作品。私が彫刻を始めたときは、写実的だったが、年がたつにつれ、抽象化している作品も多いんです。大學を卒業して彫刻の教職についたが、私の作品を米国大使館の文化担当官が見て

見てほしい、話したい



コロンビア出身彫刻家

ホセ・バガスさん

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

Architecture

By Astrid de los Rios

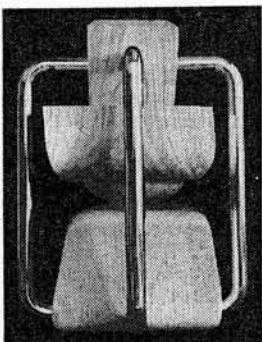
As Colombian sculptor Jose Vanegas wanders through the gardens of Kanazawa, one is tempted to ask: What's a contemporary, abstract artist like you doing in a sedate, traditional place like this? The cubic constructions of the artist, carved blocks of wood carefully combined into unexpected shapes, speak more of Manhattan or even Tokyo than the city known as "Little Kyoto." It is in its most subtle aspects that Vanegas' art reveals a Japanese sensibility that the sculptor himself is only half aware of: compactness, precision, balance. "I am interested in traditional buildings and structures and have taken a lot of pictures, but that does not mean I look at one later and make a sculpture. My memory retains the shapes in a very abstract way, and later they might find their way into my pieces." This could take a few months or

a few years, and the shapes may be unrecognizable by the time they appear in his works, but the feeling in the sculptures owes at least as much to Kanazawa as to Bogota.

Vanegas had already experienced a number of exhibitions and commissions before graduating from the National University of Fine Arts in Bogota. His pieces, carved in concrete, stone, and plastic, were round and free-flowing. The image was sweet, and, abstract though they were, the inspiration for these works came primarily from the female body. Several were purchased by the university itself, where they stand today in front of the library.

One of Vanegas' exhibitions was seen by the U.S. cultural attaché, who was so impressed that he invited the young sculptor to visit America for a firsthand look at the art scene there. The trip proved to be a great success. Vanegas met fellow artists,

A Soft Geometry



"Wedding"

critics, gallery owners, and others who would become valuable contacts later on. In addition, there was of course artistic inspiration.

"After returning to Bogota in 1982, I found myself abandoning the organic look I had always used before in favor of sharper, more geometric figures. It was not a conscious effort, but in-

spired perhaps by the general atmosphere of the U.S. I had felt an exciting and tremendous pull of energy, but it was somehow colder and more business-oriented than the relaxed attitude in Colombia, where artists work simply because they enjoy it."

Thus, he began to work with the wood of the Guayacan tree. This very hard wood allowed him to get the edges he was now after, while the color and its natural glow gave it a softening effect. Also, with the grain of the wood, he still had his curves. He objects to painting or varnishing in order to preserve as much as possible the natural finish of the wood.

His style took shape in a piece inspired by snakes. "I got the idea when I happened to catch two snakes making love. They were long and twisted around each other, with only the upper and lower parts of their bodies touching. My work too is hollow in the middle." Two pieces of wood embrace with sharp, angular edges. The effect is austere, strong, perfect; the image is not of something created but something that has always existed. Vanegas speaks of the communication he experienced with the wood while carving it, as if it were telling him what to do. There was no hesitation from beginning to end. It is the one piece with which he claims he will never part.

In 1983, the artist won another chance to travel, this time on a scholarship to Japan. He had always admired the traditional aspects of Japanese culture, and Kanazawa seemed to be just the right choice. The decision turned out to be a good one. "I found a world here completely different from that of Colombia. Aside from the language, food, and architecture, which I was mentally prepared for, even the smells were different, the way people walk, the way they think. It gave me a lot to ruminate about," Vanegas laughs. It was difficult to adjust at first with no friends and unable to speak the language. More frustrating, however, was the reality of his school, Kanazawa Art University. "In coming to Japan, I had hoped to apply advanced technology to my work, such as computers and lasers. But I soon found that my workshop in Bogota was better equipped than the university here. I discovered that in Japan, art and craft are intimately linked. The word *sakuhin* can mean a sculpture, a painting, a pot, or even a sweater you are knitting. The emphasis is on the craftsmanship — how long it took, how difficult it was, how near perfection the results are.

I believe, though, that the important thing is not the time, nor the size, nor the material. Art can be made of gold or of trash; what counts is the thought, the concept behind it. Therefore, technology can certainly be used to serve art, and machines can be used to produce it. For instance, in the U.S., you can have your sculp-



tures made at factories according to your specifications, and no one is going to tell you that it is not yours."

After Vanegas gets his initial idea, he draws it in every possible version and from every angle until it develops almost naturally into its final form. His inspiration comes from many sources: the structure of buildings, the details of their architecture, the back of a kimono-clad woman. At the moment, he is obsessed with the torii, the goalpost-shaped structure at the entrance of shrines. He has been drawing the shape for six months now in every spare moment, but a piece has yet to emerge from it. Also, he adds, "I am awed by the spiritual silence reigning in some temples. I feel there a divine presence." The Buddhist stupa, for example, is a symbol that has influenced him. The square, circle, triangle, and quarter moon which make up the stupa are rearranged by him and combined with elements taken from a pagoda.

Chinese characters interest the artist as well. "A kanji character is a form whose composition, balance, and rhythm I find very attractive. Each kanji is a sculpture that grows in space: there is the first stroke, which establishes a base, and the added elements which follow. This is very similar to my concept of sculpture. The shape of the strokes, the symmetry — everything about the kanji, I find compelling." He notes that several of his pieces derived from his love of the kanji form.

He is presently working on a piece which he originally developed in Colombia but now adds the imagery of Kutani ceramic ware. "Some critics point out the strong Japanese influence, others note a strong Indian undercurrent. It is probably both," smiles Vanegas.

The artist's problems in relating to the Japanese have made themselves felt in his most recent works, very compact and well-delimited square shapes which appear in various combinations. Vanegas notes on the one hand the rigidity of Japanese society and on the other the "roundness and softness of the inside" once a personal relationship is established. Thus, he polishes his wood until it feels like silk, rounding it off on the inside while preserving the sheer angularity of the exterior. "Of course, it is only recently that I realized I could analyze my pieces in this way."

Vanegas' works can be seen this April at the Gallery Nabi in Kanazawa.

ワイーエンド 加賀 能登

は午前十一時五十分から一日
五回。入場料、大人千五百円、
学生千三百円、小人九百円。
◆創作オペラ 12日午後6時
から、県文教芸館大ホール。
金沢日仏協会が主催する創作
オペラ。第一部が「耳なし芳
つて」。第二部は「炎の街を通

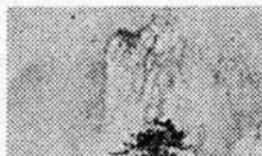
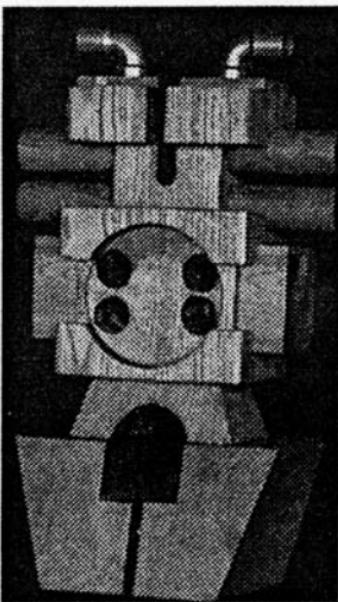
ピア生まれの彫刻家、ホセ・
バネガス氏が木を素材に製作
した幾何学的な作品写真
右二を一堂に
展示。

◆月例映画
会 12日午後
2時から、県

立美術館本
ル。上映映画は「時繪 平文

12日まで、那美画廊。コロン
◆ホセ・バネガス彫刻展

七島公良つづり「山川」
立美術館本
ル。上映映画は「時繪 平文



石
くらしと情報

南米彫刻家が個展
——☆金沢

金沢在住の南米コロンビア人彫刻家、ホセ・バネガスさん(三三)(金沢市長町)の個展が金沢市安江町の那美画廊で開かれている。

展示されているのは、神社、寺、女性の着物、鳥などからヒントを得た、モダンで抽象的な彫刻作品の十五点。材料はケヤキやブロンズなど。金沢での個展は初めてで、国内では、奈良、東京に次いで三度目、三年半の金沢生活の成果をまとめたという。

市営の駐輪舎できる
——☆加賀

JR加賀温泉駅裏に、市営の駐輪舎が完成した。軽量鉄骨平屋建て三棟合わせて八十二平方㍍で、百八台収容出来る。敷地三百八十六平方㍍。事業費四百六十七万

バネガスさんは、四年前に生となり、二年前に修了してからも金沢に滞在、彫刻で日本を表現しているといふ。展示は十二日まで。問い合わせは同画廊(電・0762・23・0390)へ。



金沢で開かれているバネガスさんの個展



——加賀タワー——

石



【金沢】ホセ・バネガス個展
4月3日から12日まで
(木曜日除く)、安江町の武
藏ヶ辻ビル・那美画廊。寺院
の多重塔からヒントを得た作
品「真空パック」(写真)など
千五点を展示。問い合わせな
は同画廊(電0762・23
0390)へ。

木
ス
テ

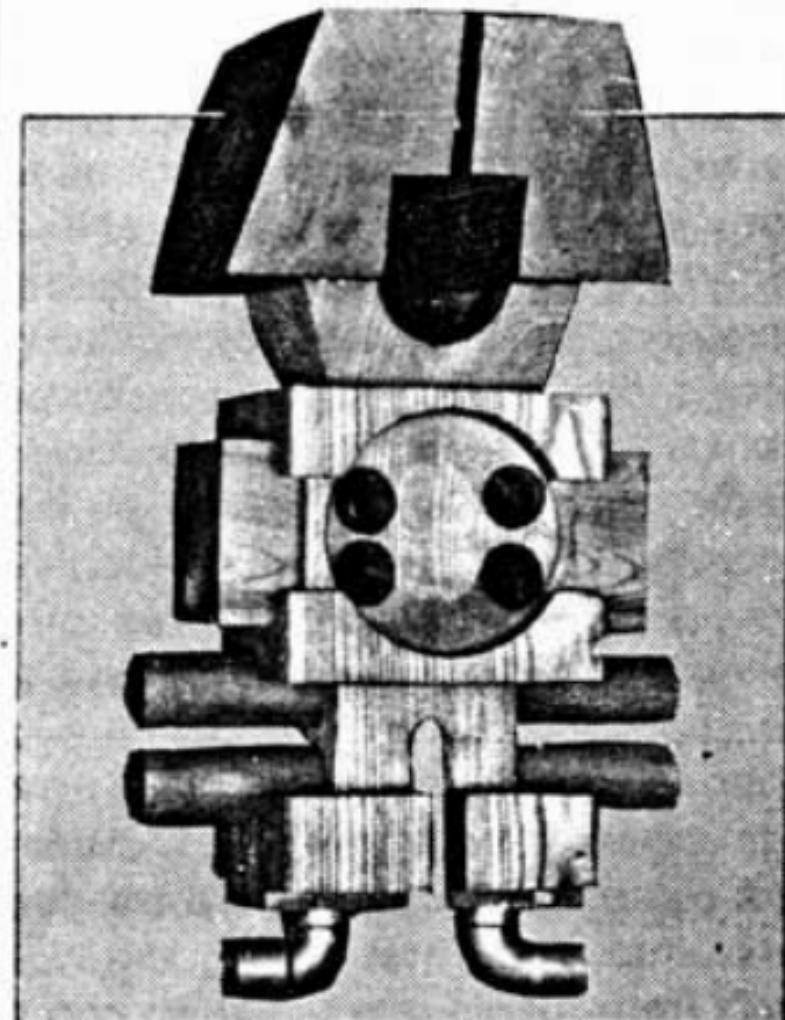
く
ら
し
と
情
報

(Colombia) N° 3612/13

- 14/21 ABRIL - 1987

CROMOS

Por Hollmann Morales Chaves



Escultura del colombiano José Vanegas. Expone en una galería de Kanasawa, Japón.

KANASAWA

- * En esta ciudad del Japón están teniendo éxito las curiosas esculturas del colombiano José Vanegas. Le colaboraron en su empeño la embajada de nuestro país en el Imperio del Sol Naciente y la Federación de Cafeteros. En cuanto termine esta muestra, Vanegas se radicará en Italia, donde piensa estudiar en firme las posibilidades del mármol. ¡Suerte!